

## 東日本大震災ボランティア活動報告

日時：平成23年7月27日（水）9：30～16：30

場所：新潟県燕市 消防本部防災センター 第一避難所

去る3月11日の東日本大震災による未曾有の地震と津波により被災地から全国に避難が行われましたが、福島県から約1万人の方が隣県の新潟県に避難されました。この度、新潟県燕市の避難所に今現在身を寄せられている被災者の方の施術ボランティアを行って参りました。

当日の朝は雷が鳴る荒れた天気でしたが徐々に回復した天候の中で避難所に2名でお邪魔しました。当避難所は広域消防本部の中にある「防災センター」という小さな体育館の様な施設でした。そこに柔道場用の畳が敷き詰められておりましたので施術を行うのに適した環境でしたが、お昼にはかなりの蒸し暑さになりました。



今月末で当避難所が閉鎖されるので当初50名ほどおられた被災者の方も16名に減っていたのですが、16名の皆名さんの4ヶ月間に及ぶ各地転々とした避難所暮らしがこれで終わるのではなく、南相馬市の仮設住宅に当選し、ようやく入られる方や、放射能の関係で帰れず、燕市の公営住宅などに一時的に引っ越される方にとってはまだまだ長い不安定な生活が続くそんな中、施術を希望された7名の被災者の方に丁寧さを心がけ精一杯の施術を行いました。慢性疲労の他、膝痛や五十肩、腰痛などの具体的な訴えがありました。



中越地震の避難所に伺った時は、地震から間もなかったことで心身ともに疲労した方が多かった様に思えたのですが、今回は4ヶ月経っていたこともあり心の面は表面上は疲労感は見られませんでした。共同生活の避難所から各々の暮らしに戻った時、かえって一気に噴出するの

ではないかという危惧を覚えた次第です。津波で家を失った話や、引き津波で海に引きずり込まれ、翌未明に自力でガレキの海から生還した話を伺うにつけ、消すことの難しい心の傷を負われているのだろうと感じました。



避難所において、歯科医師先生の巡回診療があったり、地元小学生が千羽鶴を届けるセレモニーがあったりと貴重な場面に出会うことも出来ました。

当初は夕方4時終了の予定でしたが、一人でも多くの方を施術させて頂きたい思いから時間を30分延長させて頂き、その後避難所におられたお一人お一人にご挨拶申し上げ、また、燕市及び南相馬市職員の方に御礼申し上げ、避難所をあとに致しました。

施術ボランティアを行いたい気持ちはあっても現地行政とのマッチングが上手いかなと中々避難所で施術を行うことは難しいのですが、今回は行政と社会福祉協議会のご理解を頂き活動することが出来ました。尚、行政職員の方からは避難所内に於いて大変丁寧に接して頂きました事を合わせてご報告申し上げます。

参加者：池田 勝、太田雅雄 以上2名

施術実績数：7名

※年代は推定

80代	男性	1名	
70代	男性	1名	
60代			女性 3名
20代			女性 1名
10代	男性	1名	

以上

